

日本経済小説がビジネス 日本語教材としての可能性

—中国における上級総合教材の場合

劉 小俊 徐 鵬 (2017年度共同研究員)

はじめに

企業経営や経済活動などを扱った小説はほかの国にも見られるが、ジャンルとして確立されているのは日本以外さほどないと思われる。20世紀70年代以後に現れた日本の経済小説は、比較的新しい文学ジャンルで、名前の通り経済関連のことを描く小説であるが、未だ明確な定義は定められていない。経済研究者の堺憲一は「経済小説とは、いろいろな企業や業界、それに関係する人物や経済事件などを描いた小説の総称である¹⁾」と指摘し、経済小説の特色として、「小説の醍醐味を味わいながらビジネスの神髄を学べる²⁾」と述べている。また、堺憲一によれば、経済小説の魅力はハラハラドキドキとストーリーを楽しみながら、経済の勉強もできるところにある。さらに、読者に、例えば企業経営の裏舞台や企業組織における人間の生き方、各業界の仕組みや抱える問題点及び日本経済の流れと諸問題などに関して、さまざまな貴重な情報と知識を与えてくれることであり、一般の経済書にないユニークな視点や事実認識が含まれていることである。ストーリー性、情報性、時代感覚が経済小説の面白さを支える三本柱とも言える³⁾。

佐高信氏は著書『経済小説の読み方』で、経済小説への興味を、「問題への興味、生き方への興味、モデルへの興味」の三つとしたうえで、優れた経済小説によって、読者は経済諸問題を立体的に見る方法を学ぶことができると言う⁴⁾。

以上紹介したように、経済小説は顕著な特徴と優れた点を持っているため、ビジネス日本語の教材として利用できるのではないと思われる。しかし、経済小説がビジネス日本語の教材としての可能性を論じる先行研究は非常に少ない。管見の限り、諸星美智直「ビジネス日本語教材としての経済小説」の1本しかない。諸星氏は経済小説をビジネス日本語教材に利用する場合の長所と留意点について分析し、経済小説は経済活動の描写の多様性、経済事情・経済用語及び実践的なビジネス日本語、特に敬語の習得に役立つなどの長所がある一方、教材として使用する前に、人物・固有名詞の仮名化、日本事情の変遷や不倫現場の描写など十分に検討すべきところもあると指摘している⁵⁾。

本稿は、経済小説の文学性とビジネス知識を備えている実用性に注目し、中国におけるビジネス日本語上級総合教材の開発に当たって、経済小説の教材としての可能性を探ってみたいと思う。

一、中国におけるビジネス日本語教育

1. ビジネス日本語の定義及び教育目標

現代中国におけるビジネス日本語教育の歴史は、1953年北京对外貿易学院（現在对外経済貿易大学）日本語科の成立から始まる⁶⁾。当時、中日民間貿易の発展に伴い、日本語が分かる貿易人材、とりわけ通訳者を養成する必要があることを背景に、「外貿日語」（对外貿易日本語）を中心とした日本語科が設立された。1987年改革開放政策が打ち出されると、中国の对外貿易、特に対日貿易が次第に盛んになるにつれ、北京对外貿易学院日本語科の卒業生が大いに活躍し、注目された。それに加え、社会のニーズがますます大きくなったため、対日貿易に有用な人材を育成することを目的に、ビジネス日本語を取り入れる大学がどんどん増え、1990年代に至ってビジネス日本語は大学日本語科の一つの教育内容として定着した。

しかし、その一方、ビジネス日本語教育の理論的な研究は最近になってようやく始まり、研究不足、成果が少ないのが現状である。また、ビジネス日本語

は専門科目としてではなく、カリキュラムを工夫して、関連内容を取り入れた日本語科の通常科目として設けられている大学が殆どである。ビジネス日本語の定義については未だ定められていないが、次のように言って差し支えないと思われる。つまり、ビジネス日本語教育は、日本語基礎知識を習得したうえで、ビジネス用語とビジネスに関する知識等を学習し、高度な日本語運用能力でビジネス関連の仕事に従事できる実用的な人材を育成する日本語教育を意味する。

前述のように、中国のビジネス日本語教育の始まりは「外貿日語」であったため、当初対日貿易とりわけ通訳に従事できる人材を育てるのが主な目標であり、当時の社会のニーズに応えた教育とも言える。しかし、改革開放後、多くの外資系企業が中国に進出し、合弁企業も数多く設立された。それに伴い、対日貿易の「通訳」だけでは社会のニーズに応えきれず、日系企業や合弁企業で日本語を用いてビジネスに携わる人材が求められるようになった。言い換えれば、社会のニーズによって、ビジネス日本語の範囲は対日貿易の通訳に用いられる日本語から、企業経営や経済活動全般に用いられる日本語へと範囲が拡大されたとも言える。そればかりでなく、グローバル的な視野や異文化への理解もビジネス日本語の教育目標になった。

対外経済貿易大学が中国でビジネス日本語を逸早く設けた大学であり、そのビジネス日本語の教育目標は一定の代表性があると思われる。以下の論を進めるために、まずその教育目標を記しておく。「ビジネス日本語の教育目標は、しっかりとした日本語知識と運用能力を身に付け、比較的幅広い人文・社会科学及び国際ビジネスの基礎知識を習得し、比較的強い異文化コミュニケーション能力を備えた、政府機構、企業、民間機構で国際ビジネスに携わるのに必要とされる豊かな教養を持つ人材を育成することである⁷⁾。」

2. 中国におけるビジネス日本語の教育現状

2012年に中国教育部は「普通高等学校本科专业目录（1998）」（四年制大学専門学科リスト筆者注）を修訂し、新しい「普通高等学校本科专业目录（2012）」を制定した。それによると、日本語科は外国言語文学学科に所属されるが、ビ

ビジネス日本語科は依然としてリストアップされていない⁸⁾。ところが、前述のように、中国の一部の大学では、学科の名称こそ日本語科としているが、実質的には特色のある日本語教育としてビジネス日本語教育を行っている。たとえば、筆者の一人が勤める山西財經大学は、優れた経済学学科と経営学学科があることから、1999年に日本語科を設けた当初から今日まで、ビジネス日本語教育に取り込んできた。一方、21世紀に入って、中国では日本語科でビジネス日本語教育を開設する大学がますます増えるようになった。前出の李愛文論文によると、中国では日本語科のある大学は671校あり、そのうち、ビジネス日本語を開設している大学は235校で、全体の35%を占めている。また、学生数は15万人を超える⁹⁾。この数字はビジネス日本語を開設するのは学生のニーズでもあることを表している。

同じく山西財經大学を例として見ると、日本語科の学生の9割は、もともと会計、金融、経済などの人気学科の入学希望者で、受験成績がよくなかったため、日本語科に配属された学生である。これらの学生は、入学当初学習意欲が低いものの、一旦ビジネス日本語教育の主旨を理解すると、将来経済関係の仕事に携わりたいという夢を抱きながら、次第に勉強に力を入れるようになる。

カリキュラムを見てみると、ほとんどの大学において、ビジネス日本語教育のカリキュラムは、日本語基礎知識、ビジネス日本語、経済関連の知識の三つの部分からなる。例えば、対外経済貿易大学のカリキュラムは表1の通りである。

表1 ビジネス日本語のカリキュラム¹⁰⁾

	授業科目
日本語基礎知識	基礎ビジネス日本語(1-4)、ビジネス日本語聴解と会話(1-4)、日本語精読、日本語論文作成、日本事情、日本文学など
ビジネス日本語	日本語経済貿易文章、ビジネス日本語商談、ビジネス日本語文書、ビジネス日本語翻訳、日本経済など
経済知識	経済学、マーケティング、国際貿易、国際金融、会社法律、輸出輸入貿易など

これによれば、学生は、日本語基礎知識科目で聞く、話す、読む、書くといった日本語の基礎を身につけ、ビジネス日本語の科目でビジネス専門用語やビジネス会話、日本経済について学ぶ。そのうえ、これらの科目は日本語で授業を行う。これに対して、経済知識科目は専門知識のない日本語教員が担当できないので、経済学専門の教員による中国語での授業になる。普通の日本語科と比べて、上記のカリキュラムは経済知識関連の科目が増えたため、経済、貿易、金融などに関する基礎知識を取得することができて、「高度な日本語運用能力でビジネス関連の仕事に従事できる実用的な人材を育成する」というビジネス日本語の教育目標を達成することができるように思われる。

しかし、その一方、このようなカリキュラムでは、学生は「日本語基礎知識」、「ビジネス日本語」、「経済知識」を互いに関連付けて勉強することができない恐れがある。つまり、ビジネス日本語を含め、日本語の勉強で学生は実際の経営や経済活動などに触れることはないということである。そのため、学生が卒業してビジネス関連の仕事に携わる場合、大学で勉強したことを果たして有効に生かせるかは疑問である。これは現在のビジネス日本語教育の問題点とも言える。また、二で詳しく述べるが、適切な上級ビジネス日本語教材の不足もビジネス日本語教育の現状である。

二、中国におけるビジネス日本語教材について

1. ビジネス日本語教材の現状

現在、出版されたビジネス日本語の教材は主に中、上級学習者に適用するシリーズであり、なかには優れたものもある。2006年と2015年対外経済貿易大学出版社、2008年外国語教学と研究出版社によって出版された教材がそれに当たる¹¹⁾。ほかに、実用ビジネス日本語会話、日本語商談、ビジネス文書などの教材も少なくない。しかし、上級ビジネス日本語の総合教材がほとんど少ないのが現状である。これは大きな問題だと筆者は思う。

2013年華東理工大学出版社によって出版された『商务日语精读（高級）』が

現在唯一の上級ビジネス日本語総合教材であり、日本語教材開発において大きな一歩を踏み出した教材でもある。なぜなら、この教材によって、上級総合日本語教材は主に日本文学作品を内容とする状況が改善されたからである。『商务日语精读（高級）』は大学生3年生を対象にする通年用の教材であり、二部に分けて、全32課の本文と10篇の課外読み物からなっている¹²⁾。表2のように、本文は新聞記事をはじめ、論説文や説明文、ビジネス文書からなっている。

下記の表で一目瞭然のように、『商务日语精读（高級）』の本文は経済、金融、物流などを内容とするものが殆どである。2009年9月に出版され、2013年2月

表2 『商务日语精读（高級）』目次¹³⁾

第一課	あなたの欲しいものはなにか	第十七課	経済とは
第二課	機械と人間	第十八課	日本経済の歩み
第三課	猫ばばと死刑	第十九課	戦後史の始まり
第四課	技術革新	第二十課	生産・流通・消費
第五課	公害問題に取り組む	第二十一課	さまざまな物価
第六課	石油危機を乗り切る	第二十二課	日本の経験に鑑み、それを戒めとすべき
第七課	取引先とのご連絡	第二十三課	比較優位と貿易
第八課	価格についての打ち合わせ	第二十四課	人口減少と経済
第九課	品物の注文と成約	第二十五課	再設計終えた日本企業
第十課	品物の代金支払い方式	第二十六課	実は10倍になってもよかった日本の株
第十一課	品物代金の決済書類	第二十七課	新しい金融の流れと金融制度
第十二課	品物のクレームと対応	第二十八課	アジアの工業——日本の事例
第十三課	品物の代理と委託販売	第二十九課	近代企業経営の出発
第十四課	企業の合資と合作	第三十課	金融とは何か
第十五課	品物の契約書を作成する成り行き	第三十一課	高度成長から安定成長までの企業経営
第十六課	物流の基礎知識	第三十二課	現代国家の財政と財政学

再版される時、学習効果を高める目的に練習問題を新に加えた。しかし、32課の本文のうち、ビジネス文書が9課で、全体の28%を占め、これはビジネス日本語の科目の一つである「ビジネス文書」の内容と重複になっている。また、経済知識が内容になる本文は19課もある。これによって、学生は日本語表現と経済知識の二つの面から幅広く学習することができるが、内容は抽象的な説明に偏り、学生のモチベーション向上のための「面白さ」が欠けている。例えば、第三十課「金融とは何か」の冒頭は次のようである。

一、金融の意味

わが国の経済界には戦後だけでも大きな金詰まりの現象が何回か起こりました。企業は手形の期日が来ても決済するお金が足りず、金策に四苦八苦のありさまとなり、手持ちの商品を安値で処分したり、新規の原料の仕入れや設備の拡張を抑えざるをえないことになり、これがきっかけで国内の景気が全般に悪くなったのです。ではどうしてこんな金詰まりが起こったかと言いますと、それは日本銀行の金融引き締め政策が直接のきっかけでした。このこと一つを考えてみただけでも、金融ということが企業の経営や物価の動きなどを通じて、私達の生活に重大な関係があることは明らかです。そこで金融についていろいろ解説してみたいと思うのですが、まず手始めに金融とは何を意味するかを考えてみましょう。

(李峰传『商务日语精读(高级)(第2版)』华东理工大学出版社291頁)

上記の例で分かるように、説明と専門用語が本文の殆どを埋め、経済、金融などが専門でない日本語学科の学生にとっては、分かりにくく、無味乾燥な本文と言わざるを得ない。この例で示したように日本語科の学生にとって学びやすいビジネス教材の開発が重要な課題の一つである。

2. 上級総合日本語科目及び上級ビジネス日本語総合教材の必要性

『高等院校日语专业高年级阶段教学大纲』(以下『大綱』と言う)とは、2000年に制定された中国大学日本語科3年生—4年生の教学ガイドラインである。中国教育部高等学校外国語専門教学指導委員会日本語グループによって作

成され、教育部の承認を経て、現在も全国で実施されている。このガイドラインは大学日本語科3年生と4年生を対象とする教学目标、教学内容、教学原則、教学評価などの基準を定め、教育現場における教学計画、教材作成、教学評価の根拠になっている¹⁴⁾。さらに言えば、中国の大学の日本語科は必ず『大綱』に基づいて、自らの状況に合った独自のシラバスやカリキュラムを考案しなければならない。『大綱』によると、上級総合日本語は3、4年生の必修科目であり¹⁵⁾、聞く、話す、読む、書くといった日本語の総合能力を養成する科目で、一般的には週四時間の授業を設ける。上級総合日本語は基礎日本語をマスターした次なるステップであり、学習内容も語彙と文法中心から読解に移り、言葉の裏に含まれる意味や文化背景を深く理解し、生きた日本語を身につけることを目標とする¹⁶⁾。

一方、『大綱』はビジネス日本語教育に触れていないが、筆者は次のように考える。同じ段階のビジネス日本語教育、つまり3、4年生を対象とする上級ビジネス日本語は、日系企業で日本人と同じくらい仕事ができるのに必要な語学力と多文化理解力及びビジネス関連知識を身につけることを目標に、読解を中心にビジネス専門用語を増やし、日本企業の文化とその背景をより深く理解する教育を行うべきだ。

しかし、既に述べたように、現在出版されている上級総合日本語教材は文学作品を素材としたものが殆どである。優れた文学作品は文章が美しいし、細かい心理描写に長けて、日本文化の理解には役立つと思われるが、教学目标が上級総合日本語と異なる上級ビジネス日本語教育にとって、必ずしも適切な教材ではない。一方、前出の『商务日语精读(高级)』は前述のように、学習者のモチベーション向上には適しておらず、教学評価も低いため、やはり適切ではないと思われる。そこで、教育目標が達成させるための上級ビジネス日本語総合教材の作成が当面重要なことになる。このようなことを背景に、日本経済小説をテーマとして研究してきた筆者は、経済小説を上級ビジネス日本語総合教材として利用できるのではないかと考える。

三、経済小説が上級ビジネス日本語総合教材としての可能性

経済小説は経済活動を生き生きと描いた文学作品であり、小説としての文学性と経済活動に関する知識を持ち合わせている。専門用語を並べた説明的な文章と違って、経済小説はストーリーを楽しみながら日本語、実践的な経済・ビジネス用語と専門知識を勉強することができるという利点がある。そのうえ、学習効果からみても、学習者のモチベーション向上からみても、経済小説が上級ビジネス日本語総合教材に利用できる可能性は十分あると思われる。以下、三つの角度からその可能性を詳しく述べる。

1. ビジネス日本語の知識

語学教科書として一番大事なのは語学知識を与えることである。経済小説は豊かな語彙、ビジネス用語、ビジネス現場での敬語の使い方、電話での対応などビジネス日本語学習に必須な内容を提供してくれる。

1-1 語彙学習

経済小説にはほかのジャンルの小説にあまり見られない経済活動関連の特殊な語彙がたくさん用いられている。例えばスーパー「サミットストア」の社長を務める安土敏の『小説スーパーマーケット』（1984）には「定番商品」・「特売価格」など物流関係の語彙やスーパーの陳列に関する語彙が非常に豊富である。また、スーパーを題材とする小説ということから、教科書にはなかなか見られない生活に密着した語彙も少なくない。その語彙を分類してみると、次のようになる。

物流関係の語彙：定番商品（传统商品）、非定番商品（非传统商品）、特売価格（特卖价）、通常価格（常规价格）、ショーカード（海报）、プライスカード（商品标价签）、フェース（券面）、ロスリーダー（赔本价商品）、プライスゾーン（价格波动带）など

スーパー陳列関係の語彙：ジャンブル陳列（尾货、过季品陈列）、平台（陈列架）、ダミーケース（模特道具）、キャスト付けのケース（可移动货柜）、大陳（大量陈列）、お買得品シール（促销标签）、割引コーナ（打折区）、パッケージ（打包装盒）など

食料品・生活用品：セロリ（芹菜）、ブロック肉（肉块）、ロース（里脊）、ヒレ（嫩腰里脊）、ほうれん草（菠菜）、小松菜（小松菜）、ピーマン（青椒）、オクラ（秋葵）、パセリ（香芹）、大和芋（日本山药）、マヨネーズ（色拉酱）、フレヤースカート（喇叭裙）、タイトスカート（紧身裙）、トイレットペーパー（卫生纸）、洗剤（洗涤剂）、カラーボックス（彩色收纳箱）など

物流やスーパーは学習者にとって、身近な存在でありながら、上記のような語彙は教科書には取り上げられることはあまり見当たらない。もし『小説スーパーマーケット』をビジネス日本語の教科書に取り入れるならば、生活と密着した日本語を学習者が興味津々で勉強することが想像できよう。それだけではなく、この小説を通じて物流やスーパー経営などの専門用語や知識を学ぶこともできる。

また、難しい専門用語を分かりやすく説明するのも経済小説の特徴である。池井戸潤の『オレたちバブル入行組』は大手銀行の債権回収を題材とする小説であり、金融に関する語彙が多く用いられている。なかには本来難解の金融用語を分かりやすく解説する例も少なくない。例えば、

- (1) 清算貸借対照表というのは、会社の資産から、回収できない売掛金などを削除し、正味どのくらい残っているかを検討する資料だ。それを作成するためには、前提として、その会社の真正な貸借対照表がなければならない。

ちなみに貸借対照表というのは、いわば会社の断面図である。元手がいくらで、いくら借金をし、そうやって集めた金で、どんな資産を有

しているのかが一覧表になっていると考えるとわかりやすいかもしれない。(池井戸潤『オレたちバブル入行組』文春文庫87頁)

- (2) 裁量臨店とは、融資部が支店に赴いて行く、貸出内容の検査である。期間は三日間。適正な与信判断が行われているかをチェックし、毎日検査終了後に講評があり、現場行員との検討会が催される。検査役は五名程度。リーダーは支店でいうと副支店長クラスで、後の四人は課長クラスだが、たいてい検査役になるのは支店での役目を終えた出向前の行員と相場は決まっていた。

(池井戸潤『オレたちバブル入行組』文春文庫141頁)

(1) は分かりやすい言葉で「清算貸借対照表」がどんなものかを解説したばかりでなく、「清算貸借対照表」を作成するために必要な「貸借対照表」も説明した。(2) は「裁量臨店」を説明したうえ、そのプロセスを明かし、読者は具体的な描写によって、「裁量臨店」という名詞に対する理解が自ずから深まる。学生にとって、抽象な名詞説明よりは、銀行員出身の作者池井戸潤が自分の経験に基づいたこのような描写はもっと興味を引くし、勉強しやすいことは容易に理解できよう。

さらに例を挙げれば、『営業零課接待班』に次の例がある。

- (3) フット・イン・ザ・ドア。訪問セールスマンがドアの隙間^{すきま}に足をこじ入れて“少しだけ”時間をもらい、そこから成約に持ち込む様子^{たと}の喩えで、まず小さな要求を飲ませた後で本当に飲ませたい要求を突き付ける手法だ。(安藤祐介『営業零課接待班』講談社文庫51頁)

(3) は「フット・イン・ザ・ドア」を説明する描写であるが、学生はこの説明で「フット・イン・ザ・ドア」という語彙を勉強することだけでなく、営業のテクニックに触れることもできる。まさに一石二鳥と言える。

1-2 文法学習——敬語を例に

経済小説は文学作品であるため、中国話者の学生にとって、それを読むこと自体が日本語の学習になるのは言うまでもない。もちろん文法の勉強にもなる。その一方、数多い日本語文法項目の中で、敬語は重要な項目の一つであるが、

敬語が殆どない現代中国語を母語とする中国語話者にとって、敬語の使い方をしっかり理解して正しく使うのは容易なことではない。しかし、日本社会において、人間関係を良好に保つために、また、ビジネス現場で商談をスムーズに運ぶためには、正しい敬語の使い方は不可欠である。従って、敬語はビジネス日本語の重要な学習内容の一つである。その意味で、経済活動を題材とする経済小説は、ビジネス現場の敬語の使い方を学ぶのに最適な教材になり得る。

- (4) 「少々マズイことになりました。会えませんかね」

ときえだたかひろ
時枝孝弘のもとにその電話がかかってきたのは、六月三日の午後四時過ぎのことだった。

電話の相手は原田^{たかゆき}貴之^{いせしま}。伊勢島ホテルの財務部長である。

「私のほうは空いてますが、マズイとおっしゃいますと、どのような？」

時枝は、フロアに差し込んでいる夕日の眩しさに目を細めながらきいた。

「電話では少々申し上げにくいことでして——」

原田は言葉を濁す。「弊社の羽根と一緒に伺いたい」

「専務とですか？」

時枝は聞き返した。羽根^{なつひこ}夏彦は、伊勢島ホテルの大番頭といわれる人物である。

(池井戸潤『オレたち花のバブル組』文春文庫7頁)

- (5) 「紹介するよ。私の従弟の香嶋良介君だ。西和銀行に勤めている」

「どうぞ、よろしく。香嶋です」

「いつも専務から、お噂をうかがっていました。なんでも、大変な秀才だったとか、専務は、まるで自分のことのようにおっしゃいます。

私は、伊地村でございます。何もできないんですが、石栄ストアに拾ってもらって、商売をやらせていただいています」

香嶋と伊地村とは、石狩専務をはさんで、向い合った。

(中略)

「それで、香嶋さんは、こちらに来ていただけることになったのですか？」(中略)

「そう簡単にはいかないさ」と、石狩専務は笑った。「天下の西和銀行を辞めて中小企業に転職しようというんだ。石栄ストアの隅から隅まで、すっかり知ってもらったうえで、これならと納得して来てくれるのでないと、誘った私も困る」

(安土敏『小説スーパーマーケット』(上) 講談社文庫28頁)

(4)は取引先同士が電話での会話である。短い会話の中で尊敬語の「おっしゃる」と謙譲語の「申し上げる」「伺う」「弊社」が用いられている。この用例は話の流れに沿って説明すれば、学習者に尊敬語と謙譲語の使い分けがよく分かる例である。さらに、「羽根」という呼び捨ての使い方も一般の日本語教科書にはあまり見当たらない使い方である。

(5)は(4)と違って、人物関係は上司と部下である。石狩は伊地村の上司で、香嶋は石狩の従弟である。この例で部下の伊地村は上司に対してだけではなく、その従弟に対しても尊敬語・謙譲語・丁寧語(丁寧体)をすべて使っている。これに対し、上司である石狩は尊敬語・謙譲語はもちろんのこと、丁寧語(丁寧体)すら使っていない。この例は学習者に上下関係による尊敬語・謙譲語・丁寧語(丁寧体)の正しい用法を示してくれた。

中国の大学日本語科の学生は二年生になると、敬語について勉強するが、「言う」の尊敬語は「おっしゃる」、謙譲語は「申し上げる」というような形で知識として覚えていても、実際正しく使えるかどうかは疑問である。しかし、上記の例のように、具体的な人物関係を考えながら勉強したほうが実践的で、学習効果も向上すると思われる。

2. 日本企業に関する知識

前述したように、ビジネス日本語の教育目標は高度な日本語の運用能力を有し、ビジネス現場で活躍する人材を養成することである。多くの学生は日系企業か対日貿易関係の会社での就職を希望する。そのため、日本企業に関する予

備知識が必要である。しかし、現在刊行されている教科書にはこのような内容は見当たらない。また、インターネットなどで調べても、個々の会社の組織、経営方針、業務内容などが分かっても、もっと具体的なこと、例えば仕事のやり方、人間関係、企業文化などに触れることは難しい。

一方、経済小説は日本企業内部のさまざまなことを生き生きと描いている。小説はフィクションとは言え、現実に基づいて書かれた文学作品なので、経済小説に描かれた日本企業のあり方は決して全くのイマジネーションではなく、一定の現実性と代表性があると思われる。というわけで、経済小説は日本企業の姿を垣間見るいい教材だと言っても過言ではない。

- (6) システム販売は大まかに提案・見積^{しよ}積^り→仕様の確定→契約締結^{ていけつ}→開発→納品という流れで進む。その中で特に契約締結^つの詰め以後はエンジニアの協力が不可欠となる。

(安藤祐介『営業零課接待班』講談社文庫157頁)

- (7) スーパーマーケットにおける野菜の売り方にも、いろいろなやり方があることがよく分かる。

千差万別と言ってもよい。

セロリは、株のまま売っているものと茎を分けて売っているものがあり、茎を分けたものの切り口にも、直線のものと同丸味をおびたものがある。更^{さら}に、茎のセットの仕方も、ひと通りではなく、ビニール袋に入れたもの、テープでとめたものがある。

キャベツやレタスなどは、どれもビニール袋で包んであるので大差ないように見えるが、よく見るとここにも大いに違いがある。

表の葉のとり方が違う。

茎の切り口の処理の仕方が違う。

そもそも、商品の質も、店によって違っているようである。

(安土敏『小説スーパーマーケット』(上) 講談社文庫264~265頁)

(6) はコンピュータシステム販売の流れを説明する文章であるが、日本企業の販売の仕組みを理解するのに役立つのは言うまでもない。(7) はスーパーマ

ーケットの野菜売り場をリアルに描いた文章で、野菜の売り方を具体的に説明した。セロリ、キャベツやレタスの売り方一つでも、茎の切り方や葉のとり方などにまで細心を払う。この例は日本のスーパー、しいて言えば日本企業の仕事に対するまじめな態度をよく示した。

- (8) 浅野の報告を隣で聞いていた江島がフロアの端っこにいる中西に声をかける。銀行というのは徒弟制のようなところがあって、若年者から順番にデスクを並べる習慣になっていた。デスクの順番まで官僚的だ。

(池井戸潤『オレたちバブル入行組』文春文庫34頁)

- (9) 銀行って、そういうことよくあるでしょ。自分のミスを部下のせいにしたり。そういう話、しょっちゅう聞くわ。

(池井戸潤『オレたちバブル入行組』文春文庫68頁)

(8)と(9)は銀行という金融機関、ある意味では特殊な企業が舞台であるが、ここで描いたデスクの並び方はほとんどの日本企業がそうである。また、失敗の責任を部下に転嫁する(9)も銀行だけの現象とは考えにくい。この二例自体、特に(9)は教科書に向いているかどうかは別として、日本企業の厳しい上下関係を物語っている。それに、このような描写は経済小説では決して珍しいものではない。将来日系企業に就職するのを夢見る学生にとって、この二例のような描写は厳しい上下関係に適応する心の準備を促す材料になる。

- (10) 企業には実は指揮命令系統下に配置された形式的な組織とは別次元で、飲み仲間や昼食仲間のような非形式的な組織がある。そして、イザとところで^{かじ}^げ^ぼ^{かぢから}火事場の馬鹿力を発揮するのは非形式的な組織の団結力だったりするものです。難しく考えることはない。

(安藤祐介『営業零課接待班』講談社文庫158～159頁)

(8)(9)は日本企業の厳しい上下関係を示したと言うなら、(10)は同僚間の人間関係がいかに重要かを示した例である。会社の正式な組織と別に飲み仲間、食事仲間て形成した非形式な組織がいざという時に大きな力を発揮するということは、お酒や食事が同僚と友好関係を築く手段でもあるということをも意味する。中国の大学生は日本企業における人間関係の構築にほとんど知識がないた

め、このような描写をビジネス日本語教材に取り入れれば、貴重な内容になると思われる。

3. 日本の企業文化

企業文化とは企業に所属する全社員に共通する価値観や行動様式・生活習慣のこと¹⁷⁾を言う。企業に勤める者にとって、企業文化を理解できるかどうかは会社に溶け込めるかどうかに関わると言っても過言ではなからう。そもそも違う文化を持つ中国人にとって、日本の企業文化を理解するためには一層の努力が必要である。そのため、企業文化を紹介するのはビジネス日本語教育の一環になるべきである。それだけでなく、世界に名を馳せる日本の企業文化は中国の企業家にとっても興味深いところがある。

高杉良『炎の経営者』の主人公八谷社長がなぜ毎朝八時に出勤するかと聞かれて、「社員の緊張感も出てくるし、会社の空気も」よくなっていると答えたように、企業文化はある意味で企業の「空気」とも言える。そのうえ、それぞれの企業に各自の企業文化を持っているので、企業文化の理解は本来その「空気」に触れながら少しずつ会得するものであるが、経済小説には日本企業の価値観や行動様式など企業文化を反映する描写は多く見られる。これらの描写をビジネス日本語の教科書に取り入れれば、少なくとも日本の企業文化を理解する参考になると思われる。

- (11) 台風は災害をもたらした反面、水飢饉を救う雨ももたらした。不況は会社のうわついた気持ちを引き締める力にもなる。

(昭和36・9・21)

(高杉良『炎の経営者』文春文庫273～274頁)

- (12) 叱るとはしかとあることを教えることで感情を混じえて叱るのは怒ることである。叱ることは親切である。部下を叱ることさえできない人は人の上に立つ資格はない。

(10・18)

(高杉良『炎の経営者』文春文庫274頁)

- (13) 働くということは、金を得る手段かもしれないが、しかし、それ以外

になにかあるはずだ。そうでなければ人生は余りにも寂しい。

(12・27)

(高杉良『炎の経営者』文春文庫275頁)

高杉良『炎の経営者』には毎朝始業時間に社内にスピーカーで「一日一言」を流す描写がある。(11)から(13)はその「一日一言」から選んだ例である。これらの例を通して、不況にも打ちのめられない不屈の精神と人情味溢れる企業文化に触れることができる。

- (14) 法学部卒の僕は、幸運にも採用面接の時に希望した通り法務課に配属された。企業という世界を^ま目の当たりにした途端^{とたん}、学生気分が吹き飛んだ。指揮命令系統の下で整然と動く人々、オフィスを支配する緊張感と責任感、対価として支払われる給料の重み。公と私の二つの顔を使い分ける先輩社員を「これがビジネスマンか」という^{おそ}畏れと^{あこが}憧れの^{まなざ}眼差しで見ていた。

(安藤祐介『営業零課接待班』講談社文庫16～17頁)

(11)から(13)と対照的に、(14)から感じられるのは会社の整然とした社内秩序と「緊張感」、「責任感」、「給料の重み」である。両者を合わせて教科書に取り入れれば、学生に全体像により近い日本の企業文化に関するイメージを与えることができる。

おわりに

以上述べてきたように、経済小説は様々な角度からビジネス日本語の知識と日本企業に関する知識を提供してくれるため、上級ビジネス日本語総合教材として利用できる可能性が十分あると思われるが、経済小説の殆どは長編小説であるため、教材として利用する場合、教学效果などを考えて、作品のあらすじを予め紹介する必要があるかどうか、また、如何に経済小説の面白みを伝えながら教材に相応しい内容を選ぶかなど、さらに検討すべきところがある。

註

- 1) 堺憲一著『日本経済のドラマ——経済小説で読み解く1945-2000』、東洋経済新報社、2001年 vii
- 2) 堺憲一「一粒で三度おいしい「経済小説」」『スケッチ』229、2009年01、12-15
- 3) 1) 2)参照。
- 4) 佐高信著『経済小説の読み方』、こう書房、1980年、11
- 5) 諸星美智直「ビジネス日本語教材としての経済小説」、『国学院大学日本語教育研究』4、2013年03、1-16参照。
- 6) 李爱文「中国商务日语教育的历史、现状及未来展望」『日语学习与研究』2011年04、7-13参照。
- 7) 同6)、日本語訳は筆者による。
- 8) http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/moe_1034/s3882/201209/t20120918_143152.html 参照
- 9) 同6)
- 10) 6)参照。
- 11) 2006年対外経済貿易大学出版社が出版された教材には『商務基礎日本語』1-4がある。2008年外国語教学と研究出版社が出版された教材には『標準商務基礎日本語』1-4、『標準商務日本語聴解』1-4、『標準商務日本語会話』1-2がある。2015年対外経済貿易大学出版社が出版された教材には『商務日本語基礎教程』1-4がある。
- 12) 李峰传著『商务日语精读（高级）（第2版）』、华东理工大学出版社、2013年 参照。
- 13) 同12)。
- 14) 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组『高等院校日语专业高年级阶段教学大纲』大连理工大学出版社、2000年、1
- 15) 同14)、2参照。
- 16) 同14)、3参照。
- 17) スーパー大辞林3.0

参考文献

- 諸星美智直 (2013)「ビジネス日本語教材としての経済小説」『国学院大学日本語教育研究』(4)1-16
- 高見澤孟 (1991)「ビジネスマンのための日本語教育」『講座日本語と日本語教育 第14巻日本語教育教授法（下）』明治書院
- 池田庸子 (2006)「上級日本語学習者のための読解教材：芥川龍之介「羅生門」教材化の観点」『茨城大学留学生センター紀要』4 23-31

- 岡本佐智子（1999）「小説を主教材に使う--上級読解授業例」『月刊日本語』12(5)
24-31
- 三門準（1995）「文学作品の教材化--宮沢賢治『注文の多い料理店』を例に」『日本語教育研究』30 135-145
- 堺憲一（2009）「一粒で三度おいしい「経済小説」」『スケッチ』229 12-15
- 堺憲一（2010）『この経済小説がおもしろい！』ダイヤモンド社
- 堺憲一（2001）『日本経済のドラマ——経済小説で読み解く1945-2000』東洋経済新報社
- 佐高信（1983）『経済小説でしか書けなかった話』東洋経済新報社
- 佐高信（1980）『経済小説の読み方』こう書房
- 李爰文（2011）「中国商务日语教育的历史、现状及未来展望」『日语学习与研究』04 7-13
- 李峰传（2013）『商务日语精读（高级）（第2版）』华东理工大学出版社
- 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组（2000）『高等院校日语专业高年级阶段教学大纲』大连理工大学出版社